

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) 交替表 (1605-1707)

長 島 弘

筆者は先にインドのムガル帝国最大の海港都市であったスーラト市におけるバニヤ商人と国家や地方行政権力との関係について若干の考察を試みたことがあるが、¹⁾ その際必要性を感じたことの一つは、商人たちの直接統治者たるグジャラート州スーラト県知事 (Mutaṣaddī) の詳しい交替表の作成であった。

このような交替表は、単に研究に際して便利であるだけでなく、知事の平均在任期間を知ることによって州太守や中央諸官庁の官僚のそれと比較できるし、知事経験者各自のその前後の経歴をさぐっていくなかで、帝国の中に占める海港都市スーラトの重要性の程度などもより具体的にみることができ、また、それらを通してスーラト市の歴史をより具体的にたどることができるであろう。しかし、それらの検討は今後の課題とし、ここでは交替表の提示のみを行なうことにする。なお、その作成過程において生じた諸問題についても別稿で詳述したい。

さて、このような交替表は、つとに『ボンベイ管区地誌』に見え、²⁾ 最近では B. C. ゴーカレーが作成しているが、³⁾ 前者はもちろん、後者も誤脱が多く大幅な補訂を必要とする。本表も Jahangīr, Shāh Jahān, Awrangzib 期 (1605-1707) に限定され、不明な点少なしとしないが、それらは今後補訂を行なっていきたい。

本表で用いた史料の略符号はそれぞれ以下の史料を指している。また - I / 13, - II / 51-3 などは、それぞれ Vol. I, p. 13 および Vol. II, pp. 51-53 を示している。

Best = W. Foster, ed., *The Voyage of Thomas Best to the East Indies 1612-14*, Hakluyt Society 2nd Series, LXXV, London, 1934.

Broecke = W. Ph. Coolhaas, ed., *Pieter Van Den Broecke in Azië*, 2 vols., Linschoten - Vereeniging, LXIII, LXIV, 's - Gravenhage, 1962 - 63.

Downton = W. Foster, ed., *The Voyage of Nicholas Downton to the East Indies 1614-15*, Hakluyt Society, 2nd Series, London, 1939.

DR = J. A. van der Chijs and J. E. Heeres a. o., ed., *Daghregister gehouden int casteel Batavia vant passerende daer ter plaetse als over geheel Nederlandts-Indie 1624-82*, 31 vols., Batavia and the Hague, 1887-1931, 1964
(例) DR -1636 は 1636 年の巻を示す。

EF = W. Foster, ed., *English Factoris in*

- India*, 13 vols., Oxford, 1907-27.
- (例) EF - I = 1618-21年の巻; II = 1622-23; III = 1624-29; IV = 1630-33; V = 1634-36; VI = 1637-41; VII = 1642-45; VIII = 1646-50; IX = 1651-54; X = 1655-60; XI = 1661-64; XII = 1665-67; XIII = 1668-69.
- EFNS = C. Fawcett, ed., *The English Factories in India*, New Series, 4 vols, Oxford, 1936-55.
- E T = W. Foster, ed., *Early Travels in India, 1583 - 1619*, London, 1921.
- JIH = *Journal of Indian History*. 同誌のVols. X, XI, 1931-32, には W. H. Moreland, "Pieter Van Den Broeke at Surat 1620-29" が所収。
- Jourdain = W. Foster, ed., *The Journal of John Jourdain, 1608 - 17*, Hakluyt Society, 2nd Series, No. XVI, Cambridge, 1905.
- MAH = 'Ali Muḥammad Khān, *Mir'āt-i Ahmadi*, ed. Nawab Ali, 2 vols. & Supplement, Baroda, 1927-28, 1930, Vol. I (Part I).
- MAH - T = M. F. Lokhandwala, tr., *Mir'āt-i Ahmadi*, Baroda, 1965.
- MAL = Sāqī Mustāḥidd Khān, *Ma'āṣir-i 'Ālamgīrī*. Bib. Ind. ed., Calcutta, 1870-73.
- MAL - T = J. N. Sarkar, tr., *Ma'āṣir-i 'Ālamgīrī*, Calcutta, 1947.
- Manucci = Niccolao Manucci, *Storio do Mogor, 1656-1712*, tr. W. Irvine, 4 vols. First Edition, London, 1907, Reprint ed., Calcutta, 1966.
- MU = Shāh Nawāz Khān, *Ma'āṣir al-Umarā'* 'Abd al - Ḥai's recension. Ed. Abdu -r Rahim & Ashraf Ali, Bib. Ind., 3 vols., Calcutta, 1888-91.
- MU - T = *Ma'āṣir al-Umarā'*, tr. H. Beveridge & Bains Prasad, 2 vols, Calcutta, 1911-64, Reprint ed., Patna, 1979.
- Mundy = Peter Mundy, *Travels*, Vol. II: *Travels in Asia, 1628 - 34*, ed. R. C. Temple, Hakluyt Society 2nd Series, XXXV, London, 1914.
- Norris = Harihar Das & S. C. Sarkar, ed., *The Norris Embassy to Aurangzib (1699 - 1702)*, Calcutta, 1959.
- Pelsaert = D. H. A. Kolf & H. W. van Santen, ed., *De Geschriften van Francisco Pelsaert over Mughal Indië, 1627, Kroniek en Remonstrantie*, Linschoten - Vereeniging, LXXXI, s-Gravenhage, 1979.
- PN = 'Abd al-Ḥamid Lāhorī, *Pādshāhnāma*, Bib. Ind., Calcutta, 1866-72.
- PP = S. Purchas, ed., *Hakluytus Posthumus or Purchas his Pilgrimes*, 20 vols, Glasgow, 1905-07, Vol. III.
- Roe = W. Foster, ed., *The Embassy of Sir*

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) 交替表

(1605-1707)

*Thomas Roe, 1615-19, as narrated
in his Journal and Correspondence* .
London, 1926.

SC = W. Foster, ed., *A Supplementary Cal-
endar of Documents in the India
Office relating to India or to the
Home Affairs of the East India
Company, 1600 - 1640*, London,
1928.

TJ = *The Tūzuk-i Jahāngīrī, or Memoires
of Jahāngīr*, tr. A. Rogers, ed. H. Bev-
eridge, 2 vols, London 1909-14, Sec -
ond Ed., Delhi, 1968.

(注)

1) 拙稿「ムガル帝国下のパニヤ商人——スー
ラト市の場合——」(『東洋史研究』第40巻第
4号, 1982年3月)。なお, そこで<ス

ーラト市長官>としていたものを, 本稿では
<スーラト県知事>に訂正しておきたい。
スーラト県の場合, 他県と統治機構が異なっ
ており, また *Mutaṣaddī* の権限にも変遷がみ
られるように思われ, その権限は主に都市を
主体とするもののようで, <県知事>と呼ぶ
ことに若干のためらいを感じるものではある
が, この点は, 別稿にて詳述したい。

- 2) さしあたり, cf. Government of Gujarat,
*Gazetteer of India, Gujarat State Gazet-
teers, Surat District (Revised Edition of
Volume II of the original Gazetteer of the
Bombay Presidency relating to Surat and
Broach*, Ahmadabad, 1962, pp. 99n, 113n .
- 3) B. G. Gokhale, *Surat in the 17th Cen-
tury, a Study in Urban History of Pre-
modern India* , London and Malmo, 1979,
pp. 70-71.

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) 交替表 (1605-1707)

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
①Muqarrab Khān	1608年9月3日 以前～	<p>Hawkinsの到着時(08年9月3日),既に<スーラトとキャンベいのViceroy>(ET/71)。以後15年6月頃の交替(Downton/147n; cf. ,Roe/xii,42)まではほぼ一貫して在任(TJ-I/167, 275; Jourdain/135, 172; PP/176, 181; Downton/5)。ただし,10年5月～11年9月24日の間のある時期に王の使節としてゴアへ赴く(ET/64-68, 93; Jourdain/172; TJ-I/172,215)。又,12年5月からおそらく1年足らずの間デリー州太守として存任(TJ-I/224,234)。その間は県知事を解任されていた可能性がある。</p> <p>彼の下には<スーラトのGovernor>がいた: Khwāja Nizām = 09年末又は10年初頭 (Jourdain/138), 11年10月 (PP/174)の在任が確認され, 11年12月29日の直前に 解任された模様(PP/181)。</p> <p>Mirja Fursola = 12年10月在任中(Best/ (? Mīrzā 259; EF-I/150; SC/21,44)。 Fayzullāh) 14年11月までには死去(SC/44)。ただし彼は,①の デリー州太守在任中の事実上 の県知事であった可能性がある。 Khwāja Nizām = 少なくとも14年10月～15 年2月の間は,在任が確認で きる(Downton/26,87,170)。</p>

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutasaddī) 交替表 (1605-1707)

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
		<p>Shaykh 'Abd al-Rahīm =時々①の代理として (①の弟) スーラトへ派遣される (ET/ 72; Jourdain/173)。</p>
②Zūlfiqār Khān	15年6月頃～	<p>スーラト地方 (Province) が王子 Khurram (= Shāh Jahān) のジャ-ギ-ルとなり, ①が召喚され, <王子のGovernor > として②が派遣されてきた (Roe/xii, 42; Downton/148)。以後23年10月初頭まで, スーラトは王子のジャ-キ-ルとして存続 (TJ-II/267)。</p>
③Ibrāhīm Khān	16年3月5日の 直前～	<p>②が更迭され, ③が後任となる (SC/51; Roe/ 124-5n)。 16年8月10日頃, ①がグジャラ-ト州太守に 任命される (TJ-I/138)。</p>
④Jamāl Khān	17年12月12日 頃～	<p>この頃, ③が告発により宮廷に喚問された (Roe/ 446-7)。④が後任 (EF-I/150)。 18年1月初頭, ①に替って, 王子 Shāh Jahān がグジャラ-ト州太守に任命され, 同州がそのジャ- ギ-ルとされた (TJ-I/424)。</p>
⑤Mīrzā Is-ḥāq Beg	18年8月-19年 4月16日の間～	<p>Roe が帰国する (19年2月27日) 以前に王子 の好意的な約束をとりつけた (18年8月) が, そ の頃, ⑤が④と交替したという (EF-I/150)。4 月16日の直前に⑤がイギリス人への布の販売を禁 止する (EF-I/89)。</p>
⑥Mīrzā Jamshīd Beg	19年11月26日 の直前～	<p>同日, <新Governor > がすでにパロ-ダに到着 (EF-I/146, 148, 150)。</p>

長 島 弘

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
⑦Mīrzā Is-hāq Beg	21年10月12日 の直前～	⑥に替って⑦が任命された。彼は王子に、毎年ス -ラト港から、これまでより20万マフム-ディー 多く上納することを約束したという(EF-I/281)。 王子は、⑦を<ス-ラト港のGovernor>に任命し た、と述べた(EF-I/319-20)。
⑧Mīrzā Jamshīd Beg (?)	22年2月20日 の直後～	⑦が王子のもとへ喚問された(2月3日, EF-II /25)。⑧が後任となるだろう(2月20日, EF -II/39)。4月17日までには<新Governor>が 着任(EF-II/71)。
⑨Ḥākīm ‘Abdullāh	22年11月22日 の直前～	11月22日には、ス-ラトに向いつつある(EF -II/144)。 22年末、王子Shāh Jahānが反乱開始。⑨も< ス-ラト城のGovernor>のMīrzā Jān Qulī Beg らと共に王子の側に立つ。
⑩Bahādur Khān	23年10月4日～	同日、王の側に立つ⑩が入市し、事実上の県知事 ⑨らは籠城(EF-II/xxviii, 263)。
⑪Mīrzā Shādmān	23年10月22日～	王子Dāwar Bakhsh(新グジャラ-ト州太守)の 補佐役Khān-i ‘Azamの息子である⑩が入市、⑩に 替って統治(EF-II/xxviii, 276, 280, 289)。
⑫Bahādur Khān	23年10月29日頃～	(EF-II/xxviii, 282)。
⑬Sayf Khān	23年11月14日～	⑩が⑨らを護送して出発し、州のDīwānである ⑬のみス-ラトに残り統治、事実上の県知事(EF -II/297, 298)。

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) の交替表 (1605-1707)

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
⑭ ?	25年3月-10月 の間～	Jahāngīr の治世第20年=1034 A. H. (従って25年3月～10月の間) に、⑭がグジャラート州の事実上の太守に任命される (MAH/200; MAH-T/174)。後任不明。
⑮ Mirzā Jān Qulī Beg	26年6月2日の直前～	26年6月2日の直前にスーラトは王子 Parwīz にジャ-ギ-ルとして与えられた模様であるが、同王子は同年10月27日死去。⑮が王子によって派遣され<新Governor>として6月2日入市。彼は王子の死去後も在任 (Broecke-II/323, 325; JIH-XI/205, 207; cf. EF-III/152-3&n, 156-7)。27年秋の皇帝の死去後、<町のGovernor>である⑮が<彼の城>にひきこもった。それを親 Shāh Jahān 的行為とみた州太守 Sayf Khān は、かつて<城の長官>の経験のある、同地域の Fawjdār の Sayid Nūr al-Dīn を同城に潜入させ、⑮を逮捕させた (12月9日 Pelsaert/233-6; Broecke-II/335; JIH-XI/211; EF-III/202)。⑮は<城の長官 (Qilāddār)>を兼任していたものと思われる。
⑯ Mīr Shams al-Dīn (?)	27年末～	28年2月 Shāh Jahān 即位。その直前の27年末、彼がスーラト通過時に⑯を Qilāddār に任命 (MAH/202-3; MAH-T/176; MU-T-II/798)。彼が事実上、Mutaṣaddī の業務を兼務していた可能性が大きい (cf. Mundy/265)。
⑰ Mīr Mūsā (後の称号 Mu'izz al-Mulk)	29年4月頃～	4月16日イギリス商館長が<新Governor>である⑰と協議した (EF-III/335)。彼は<スーラトとキャンベイの Mutaṣaddī>である (MAH/208; MAH-T/181)。

長 島 弘

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
⑮Ḥakīm Masīḥ al-Zamān	35年末～	⑮の後任 (EF-V/xv; DR-1636/49. なお, cf. MAH/215; MAH-T/189; EF-V/189)。
⑯ Muʿizz al-Mulk	38年12月7日の 直前～	⑯が更迭され, ⑰がやってきつつある (12月7日, SC/140, 141. なお, cf. MAH/212; MAH-T/186)。
⑰ Mīrzā Jān Qulī Beg	41年10月初頭～	10月初頭, ⑰によるこの地方の支配と税関と造幣所の徴税請負の契約期限が切れ, ⑱に交替 (EF-VII/23-4 & n)。この交替は10月14日に起ったともいう (DR-1641～42/188)。
⑱ Sharaf al-Dīn Ḥusayn	43年10月6日の 直前～	⑱の代りに, ⑳が10月6日にスーラトに到着した。㉑は12月末 (イギリス側史料では44年1月3日) アーグラへ向けて, スーラトを出発した (DR-1943～44/196; EF-VII/160 & n; なお, cf. MAH/218; MAH-T/192)。
㉒ Mīrzā Amīn	45年2月の直前～	2月スーラト着任。なお, 王子 Awrangzib が, グジャラート州の太守に任命される。ただし, スーラトは除く (DR-1644～45/245)。その直前にスーラトからの税収は王女 Jahānārā のイナムとされた模様 (PN-II/397; MAH/219; MAH-T/193. なお, cf. Manucci-I/63, 208; EF-VII/148)。
㉓ Mīrzā ʿAlī Akbar (Isfahānī)	46年12月26日の 直前～	12月26日, バヤーナのイギリス人がスーラトへこの交替を知らせている (EF-VIII/62, 63)。彼には<スーラトとキャンベいの統治>が委ねられた (MAH/222; MAH-T/196)。

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) の交替表 (1605-1707)

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
㊦ Mu'izz al-Mulk	48年1月2日以後～	1月2日に、㊦が刺殺され、その後㊦が任命される (EF-VIII/196。なお、cf. MAH/223, MAH-T/197)。彼はキャンベイをも統治していた模様 (EF-VIII/334-5)。
㊦ Mīrzā 'Arab	49年11月26日～	同日交替 (EF-VIII/319, 289)。なお、50年12月㊦はキャンベイの統治権も奪われ、皇帝の家臣の列から除かれた (EF-VIII/334-5)。
㊦ Hāfiz Muḥammad Nāsir	52年12月20日 の少し以前～	12月20日<新Governor>がイギリス商館の鉛を買う (EF-IX/140&n。なお、cf. MAH/224; MAH-T/200)。彼はキャンベイの統治も委ねられ、又後にスーラトのFawjdārも兼任した模様 (MAH/229, 234; MAH-T/203, 207-8)。
㊦ Shaykh Muḥammad Amīn	56年2月16日の直 前 (1月6日?)～	2月16日までに㊦が罷免され、後任の㊦はすでに德里を出発した (EF-X/62)。この交替は1月6日に起り、㊦は同時にスーラトのDīwān, Fawjdārにも任命されたという。またキャンベイの統治はMu'izz al-Mulkの弟 'Abd al-Latīfに委ねられたという (MAH/234; MAH-T/207-8)。
㊦ Muḥammad Qāsim	56年6月4日～	㊦が投獄され、㊦がFawjdārに、Rawshan ZamīrがDīwān兼Amīnに任せられた (MAH/234-5。㊦のFawjdār任命については、EF-X/72も見よ)。この時はMutaṣaddīのいない体制となったものと思われる。今、仮に㊦を代表者としておこう。
㊦ 'Abd al-Latīf (?)	57年9月14日の 直前～	9月14日、スーラトへ向う<新Governor>がアフマダーバード附近に到着 (EF-X/118)。

長 島 弘

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
⑩ ?	58年1月中旬～	<p>同年10月王子Murād Bakhsh (グジャラート州太守) が, Shāh Jahān 帝病氣とのニュースを得て反乱, 11月, 王女Jahānārā の<イクター (=ジャ-ギール即ちイナム)>であるスーラト市を襲撃し, この時, Mutaṣaddī の‘Abd al Laṭīf (Islām Khān の息子) を捕えたという (MAH/235; MAH-T/209)。</p> <p>Murād Bakhsh が自己の官僚を諸地方に派遣。</p>
⑪ Ṣādiq Muḥammad Khān (?)	58年後半(?)～	<p>Awrangzīb (7月第一次即位) により任命される (MAH/243; MAH-T/215)。</p>
⑫ Amīnī Gujarātī(?)	59年1月～	<p>敗走中の王子 Dārā Shukōh によって任命される (MAH/243; MAH-T/215)。</p>
⑬ Mīrzā ‘Arab	59年4月～	<p>4月に新Governor がスーラトに到着 (EF-X/210, 123 n)。59年6月, Awrangzīb の正式即位。</p>
⑭ Muṣṭafā Khān	60年11月7日の直後～	<p>⑬は11月7日死去, ⑭が61年1月1日スーラト到着 (DR-1661/105; cf. EF-X/330&n)。</p>
⑮ Ināyat Khān	63年4月14日頃～	<p>⑭が63年4月14日までに宮廷に喚問され, その時後任として派遣されるだろうと予測されていた ⑮が, 6月21日スーラト到着 (DR/305, 453, 590; cf. EF-XI/205)。</p>
⑯ Ghiyāṣ al-Dīn Khān	64年5月2日の直前～	<p>64年1月の Shivājī のスーラト襲撃の直後⑯が罷免され, 5月2日⑯がスーラト到着 (DR-1664</p>

ムガル帝国スーラト県知事 (Mutaṣaddī) の交替表 (1605-1707)

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
		/ 423; EF - XI / 311)。
③⑦ ?	67年7月5日 - 68年2月1日の間～	③⑦は67年7月5日 - 68年2月1日の間に更迭された (EF - XII / 274, 282)。68年11月には <前 Governor > とされている (EF - XII / 114)。後任不明。
③⑧ Rūstam Zāmīr (あるいは Rawshan Zāmīr ?)	?	彼が③⑧の直接の後任かもしれないが、やはり Oxenden の死去時 (69年7月) を去ること1年以内の就任と思われる (EF - XIII / 198-9, 202)。70年9月中旬急死し、暫時 <臨時の Chief > が統治 (EFNS - I / 193)。10月中旬 Shivājī の第2回スーラト襲撃。
③⑨ Mīrzā Sayfullāh	70年11月24日の 直前～	11月24日、<新 Governor > の③⑨が Shivājī の襲撃の際のイギリス商館の防衛ぶりを讃える (EFNS - I / 198)。
④⑩ Ghīyāṣ al - Dīn Khān	72年1月頃～	任命 (EFNS - I / xvii)。
④⑪ Mīrzā Muḥammad Beg (後の称号 Kārṭalab Khān, Shujā'at Khan)	72年10月～	④⑩が罷免され、④⑪が後任となる (EFNS - I / 284, なお, cf. MAL / 158 - 9; MAL - T / 98)。
④⑫ Salābat Khān	84年9月14日～	④⑪の後任の Mutaṣaddī (MAL / 247; MAL - T / 151)。
④⑬ I'tīmad Khan	89年6 - 7月頃～	④⑫が自ら希望して宮廷へ向った時、④⑬がその代り

長 島 弘

県知事氏名	在任期間	関連記事と出典
(Mullā Muḥammad Tāhir)		に<スーラトの Dīwān 兼 Fawjdār >に任命されたという (MAL/331; MAL-T/199)。実質上の Mutaṣaddī。
④Āmānat Khān (Mīr Ḥusayn)	93年8月以後の ある時～	④は93年8月の直後に死去した (MAL/360; MAL-T/217)。④は少くともその頃までアウランガーバードで任官していた (MAL/347, 349; MAL-T/209, 210)。従って、スーラトの Mutaṣaddī となるのはそれ以後のことである。
⑤Diyānat Khān	99年12月頃～	④がこの頃死去し、兄である⑤が後任の Mutaṣaddī となった (MAL/412; MAL-T/250。なお, cf. Norris/205)。彼は1702年初頭、在任中である (MAL/460; MAL-T/275) が, Awrangzīb の治政末年より以前に更迭されている (MU-II/61; MU-T-I/473)。後任不明。

(注) イギリス側史料の日付はユリウス暦 (グレゴリウス暦 — 10日) に依っているが、本表では全てグレゴリウス暦に直してある。なお、在任期間の開始期は、スーラト到着期ではなく宮廷での発令時期 (推定) を主として掲げた。